

群 馬 県 立 太 田 フ レ ッ ク ス 高 等 学 校【定時制課程】			学 校 評 価 一 覧 表（令和6年度版）			(別紙様式)		
羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。	本校の特性を生かした教育活動と個に応じた支援・指導を展開する。創立20周年記念事業を通じ母校愛を育み、学校の活性化を図る。	B	B	B	生徒の78%、保護者の97%が学校のことを好きと回答している。十分満足できる数値ではあるが、昨年度は90%であったので、数値としては大幅に低下した。現在の生徒状況や社会状況に合わせた教育活動をさらに実践する。	外国にルーツを有する生徒を中心に、多様な生徒への学習環境を整備しているという学校の特色づくりは十分に評価できる。様々な言語に対応できる環境を今後も充実させていくことが必要であるし、日本語活用能力が高められるよう期待している。また、単位制、フレックス制であることのメリットをこれからも発揮していただきたい。
		② 「自ら考え、判断し、行動できている」と感じている生徒が80%以上である。	授業や部活動、学校行事等のあらゆる場面で、多様な個性や価値観を認め合い、生徒が自ら判断し行動できる機会を設ける。（②・③共通）	A	A	A	生徒の90%が「自ら考え、判断し、行動できている」と回答している。本校の根幹でもあり、継続していきたい。	
		③ 「多様な個性や価値観を認め、他者を思いやれている」と感じている生徒が80%以上である。		A	A	A	生徒の90%が「友達との個性や価値観を認め、思いやれている」と回答している。生徒の多様性は本校の特徴であり、本校の存在意義でもある。今後も生徒の寛容性を涵養する教育を推進する。	
		④ 完全な単位制の履修形態に満足している生徒・保護者が95%以上である。	個々の生徒の適性や卒業目標(3年卒業・4年卒業)、進路目標に合わせた個別指導を適宜行う。	A	A	A	肯定的な回答（生徒96%、保護者100%）を得た。今後も各生徒の進路目標をより具体化させ、丁寧な個別履修・修得指導を行う。	
		⑤ 学年・学級がない中で、生徒の出席率が80%以上である。	連絡のない欠席者の保護者へ必ず連絡を行う。欠席が増加・継続傾向にある生徒について、早めに保護者との面談の機会を持つ。	B	B	B	I部79%、II部76%、III部86%である。III部は昨年度より高くなったが、I・II部が低下した。長期欠席者の数が多く、その対策が喫緊の課題である。学校中心の生活を維持させることが必要である。	
		⑥ ゼミ(総合的な探究の時間)の活動や学校設定科目の内容に満足している生徒・保護者が90%以上である。	主体的かつ探究的に活動(エージェンシーの発揮)させるため、職員研修を実施するなど、指導者のスキルアップを図る。また、生徒の現状に応じて、必要な学力が身に付くように、指導内容や授業展開を工夫する。	A	A	A	ゼミを選択するシステムについては肯定的な回答（生徒96%、保護者100%）を得た。一方、ゼミの内容の満足度についてはやや数値が低い（生徒91%、保護者98%）。ゼミ活動を通じて、具体的活動計画を主体的に作成し、活動・発表により自己肯定感が高まるよう支援する。	
		⑦ 外国籍や日本語を母語としない生徒に対する日本語指導体制に満足している生徒・保護者が90%以上である。	日本語指導支援員や外部団体、県貸与の機器(多言語通訳機)などを活用して、外国人生徒等の包括的支援体制を確立する。	B	A	B	「日本語」の授業を受けたことのある生徒が回答者の21%、満足度は生徒97%、保護者100%である。今後ますます「日本語」指導の需要が高まることが予想されるなか、学校全体の取り組みとしてさらに充実させる。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑧ 少人数制の授業(形態や内容)に満足している生徒・保護者が95%以上である。	少人数制授業のメリット(主体的な学び・失敗から学ぶ)・デメリット(多くの他者との共感や理解を深める)を再確認したうえで、授業展開にバリエーションを持たせる。	A	A	A	肯定的な回答（生徒95%、保護者100%）を得た。今後も少人数制授業のメリットである個々の生徒の学習姿勢や心理状況の変化を常に確認しながら、生徒の実態に応じた授業内容や授業方法の改善を行っていく。	生徒が学校を居場所にできるというのが素晴らしいことである。また、多様なニーズを有する生徒や保護者に対応するためには、少人数制をとることは望ましいことであると思われる。きめ細やかに生徒に働きかけながら、エージェンシーが発揮できるように指導を継続していただけるとありがたい。また、「学力の向上」を細分化して評価を行うなど学校側の工夫も必要である。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑨ 学力が向上したと感じている生徒が90%以上である。	思考力・判断力・表現力を育む指導、探究の過程を重視した授業、適切な評価等の工夫と実践を行う。	B	B	B	概ね肯定的な回答（生徒82%、保護者93%）であったが、昨年度と比較すると生徒の数値が大幅に低下（90%→82%）した。授業内容や教授方法を再検討し、生徒の学びを実感できる授業展開を実践していく。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩ SNSに関わるトラブルに巻き込まれることなく、健全な学校生活を送っている生徒が100%である。	SNSに頼らない人間関係づくりによるトラブルの予防や日々の生徒の観察をより徹底し、適宜指導する。	B	B	B	概ね肯定的な回答（生徒86%、保護者91%）であるが、生徒の数値は昨年度と比較して大幅に低下（94%→86%）した。今後も、SNSの適切な使用について、啓蒙していきたい。	SNSのトラブルを回避することは、今後も重要な事項となるであろう。生徒が学べる場を定期的に設定することが考えられていくのがよいと思われる。教育相談に関しては、日常から予防的な生徒指導の内に含めて、全職員がカウンセリングマインドを有して生徒に接することが必要となるであろう。「教育相談」という名目に拘らず、「生活相談」、「学習相談」、「進路相談」と一体化して考えるのがよい。その意味で、システムは十分機能していると思う。
		⑪ 挨拶の励行や学校生活の中でのマナーや礼儀を守った行動ができている生徒が90%以上である。	生徒間・生徒と教員間の温かい人間関係を基に、TPOをわきまえた節度ある行動をとれるように指導する。	A	A	A	肯定的な回答（生徒96%、保護者100%）を得た。今後も、生徒間・生徒教職員間の良好な人間関係を構築し、生徒の自己肯定感を高める支援を継続する。	
		⑫ 交通マナー・交通ルールを遵守している生徒が90%である。	自分の身は自分で守るという意識を高めつつ、交通マナー・交通ルールを守る必要性を繰り返し指導する。	B	A	B	肯定的な回答（生徒95%、保護者98%）を得ているが、実態は不十分であると感じている。ルールやマナーについて、生徒の基準が低いと思われる。生徒の命にかかわる問題であり、繰り返しの指導が必要である。	
		⑬ 教育相談が充実していると感じている生徒が80%以上である。	異変時はすぐに管理職、教育相談係、スクールカウンセラー等に報告・連携し、個々の生徒への支援を組織全体で行う。	B	A	B	概ね肯定的な回答（生徒85%、保護者84%）であるが、そもそも教育相談のシステムを理解していない生徒・保護者も多いと思われる。不要な生徒に告知する必要はないが、必要な生徒が利用できるようなアナウンスも必要である。	
		⑭ 体育の学校行事に生徒の70%以上が参加し、参加者の90%以上が満足している。	行事の意義理解と健康管理など、生徒への事前指導を充実させるとともに、当日は生徒の的確な観察と支援を行う。	A	B	B	生徒の87%が肯定的な回答をしている。コロナ禍で中止していた「チャレンジウォーク」の代替行事や、球技大会を実施した。代替行事については初回でもあり、来年度は生徒中心にさらに進化した行事としたい。	
		⑮ 学校行事フレックス発表会に満足している生徒が85%以上である。	ゼミ活動や探究活動において、他者に伝えたり、他者に評価される機会をこれまで以上に設定する。	B	B	B	生徒の84%が肯定的な回答をしている。文化祭的な要素を求める生徒が多いため、このような数値になったと思われる。探究活動の発表の場であるとともに、生徒の求める娯楽性をいかに共存させるか、生徒主体に考えたい。	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑯ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と認識している生徒が85%以上である。	日々の観察と定期的アンケートにより状況を把握し速やかに対応する。集会等によりいじめ防止の啓発を行う。職員打合せなどで、生徒情報を共有する。	A	B	A	生徒84%、保護者83%が肯定的な回答をしている。出自や家庭環境など様々な生徒が集まる本校において、喫緊の課題である。日々の指導を丁寧に行い、発覚時には正確に状況把握を行い、適切な指導・支援を行う。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑰ 感染症予防について正しく理解し、実践する等、健康について自己管理ができている生徒が80%以上である。	『保健だより』による感染症予防や生活リズム等の広報活動を促進し、自主的に健康づくりができるようにする。	B	B	B	生徒76%、保護者69%が肯定的な回答をしている。昨年度から大幅に低下している（生徒85%、保護者82%）。学校生活の基本であり、保健指導を継続的に実施する。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑱ 進路指導が自分の進路検討や進路決定に役立つと感じている生徒が90%以上である。	進路関係諸行事のさらなる充実と適切な情報提供に加え、こまめに個別アドバイスをを行う。	A	A	A	生徒・保護者ともに91%が肯定的な回答をしている。入学時から卒業後の進路を意識させ、一人一人の生徒の進路実現を図っていく。	キャリア教育に結びつくような探究的な活動が展開できれば、主体的な進路選択が実現する可能性は高まるのではないかとと思われる。企業人のOB・OGを活用して、学校の内外で職業に関する体験的な学びが計画されてよいのではないかとと思われる。生徒がアウトプットできる場面をさらに考えてみてはどうだろうか。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑲ 進路目標を持ち、その実現に向けて努力している生徒が80%以上である。	早期に卒業後の進路を意識し、モチベーションを維持できるように指導する。卒業予定者に対するゼミ活動を充実させる。	B	A	B	生徒81%、保護者93%が肯定的な回答をしているが、生徒が進路志望実現のために主体的に活動しているとは言い難い状況である。生徒が自らの進路を考える場面は定期的につくっているが、より効果的なものとなるよう、内容や形態を考えたい。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑳ ICTを活用した情報発信に満足していると評価する保護者が90%以上である。	保護者のニーズを的確に把握した上で、一斉メール・ホームページ等を活用した情報発信を行う。	A	A	A	保護者の91%が肯定的な回答をしている。学校ホームページに加え、安心安全メールからの情報発信、またGoogle-Classroomを活用して、生徒・保護者との情報共有を図った。	学校説明会や授業公開などで、情報は十分に発信されているように思う。まだまだ足りないというのであれば、地域に貢献する活動をゼミ単位のフィールドワークとして実施することもあるてよいのかも知れない。中学校だけでなく、小学校や、国際教室、フレクラスなどにも情報を発信することも考えられる。
		㉑ 学校説明会や授業公開、中学校訪問など、外部に情報発信する機会を年間20回以上設けている。	学校案内等の説明資料を充実させ、ホームページも定期的に更新し、本校の魅力を積極的に発信する。年間300人以上を個別の授業見学で受け入れる。	A	A	A	個別の授業見学会を数多く実施し、I・II部で158組、III部で10組の生徒・保護者が参加した。また、中学校教員向けの授業公開を3回、個別の中学校と地区別説明会へそれぞれ1回学校説明会を実施した。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉒ ICTを活用した授業に、生徒の90%以上が満足している。	Chromebookを活用し授業内容の充実を図る。職員間の情報共有にオンラインを活用する。	B	—	B	生徒の87%が肯定的な回答をしている。職員研修を行い、活用実践例の共有を図っている。来年度も実施する。	ICT活用に関して、職員研修を実施していることは評価できる。個人情報の保護に努めながら、さらに生徒情報の管理に関するシステム化を推進する段階にきていると思われる。また、デジタル教材、デジタル教科書の活用を図ることも重要と思われる。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉓ 職員間の情報共有にオンラインを活用している。	オンラインで共有できる情報を精査し、職員会議や打合せの効率化を図る。	B	—	B	校務支援システムkinakoや電子採点システム導入など、ICT化による業務改善を進めているが、充分とはいいいがたい状況である。業務のICT化を一層進める必要がある。	